

# 実世界行動情報と情報空間行動情報の統合に関する研究

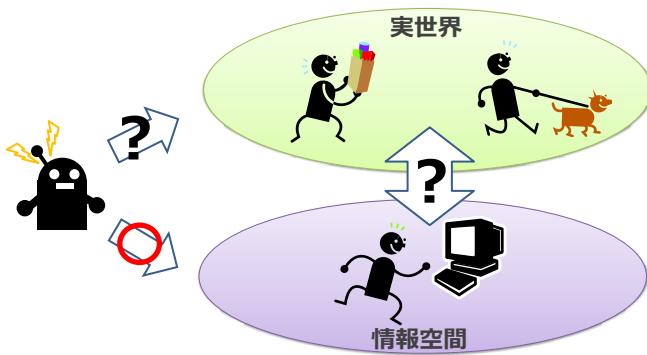
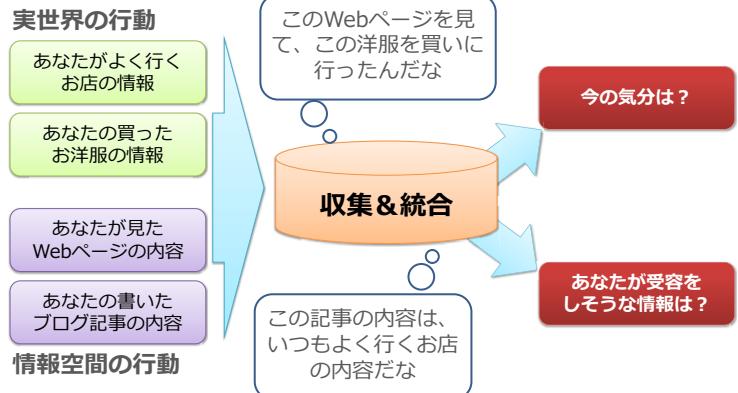
相原 健郎  
Kenro AIHARA

小柴 等  
Hitoshi KOSHIBA

武田 英明  
Hideaki TAKEDA

## どんな研究？

- 実世界および情報空間（インターネットなど）での行動ログの収集とそれらの統合に関する研究です。
- ここでは特に、収集したログを解析することで、**ユーザの心的コンテキスト（気分）の推定**や、ユーザごとの有用でかつ“受容され易い”情報を推定する技術に関する研究を進めています。
- 街なかで「今日はちょっと疲れたな、さっぱりしたもののが食べたいな。」と思って携帯でお店を検索したら、コンピュータがそんな気分を察してぴったりのお店を紹介してくれる…そんな未来につながる研究です。



## こんなところで使われています

- 経済産業省の「e空間実証事業」の一環として、これらの研究成果を活用したスマートフォン向けのアプリケーション“pin@clip”を開発し、東京都渋谷区および渋谷区内の商業施設で、一般の皆さんに使っていただきました。
- この実験では、ユーザの行動ログ（アプリの起動や、情報の閲覧・投稿などの動作、そのときの位置など）から、ユーザの気分を推定したり、情報の推薦を行つたりしました。

## なぜこの研究が必要なの？

- あなたにぴったりの情報を探すには、あなたの事をよく知り、あなたの気分や、気に入りそうなものなどを考える必要があります。でも、コンピュータは実世界でおきていることを知るのがとっても苦手…
- そこで、**実世界でのあなたの行動をコンピュータに教えてあげるための仕掛けや、実世界の行動と情報空間（インターネットなど）の行動を関連づける仕掛け**が必要なのです。



## 関連して取り組んだ課題



## 10年後この研究はどうなっているか？

- この研究の目標は、コンピュータを“なじみのお店のなじみの店員さん”にすることです。
- 10年後にはコンピュータが、
  - あなたの今の状況や気分に応じた
  - あなたは気づいていないけれど、あなたにぴったりな情報を、
  - あなたが気持ちよく受け止められるような方法で、
  - オススメしてくれるようになります！

